

はじめに

名古屋大学大学院教育発達科学研究科附属高大接続研究センター紀要をみなさまにお届けできますことを大変嬉しく思います。なお本号は、諸般の事情で第2号と第3号の合併号としてお届けすることになりましたことをはじめにおことわり致します。

第1号の巻頭言にも書かせて頂きましたが、高大接続研究センターは、本研究科が1999年に設立し、その後運用してきた附属中等教育研究センターを、2015年5月に発展的に改組して開設したものです。

本センター開設の背景には、後期中等教育と高等教育、そして大学入学者選抜に関する大きな改革の流れがあります。2014年12月の中央教育審議会答申「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について」に基づき、2015年1月に文部科学省が「高大接続改革実行プラン」を、そして9月には高大接続システム改革会議が「中間まとめ」を公表し、2016年3月には、「最終報告」が公表されました。

そのプランでは、新たに高校段階での「高等学校基礎学力テスト（仮称）」と、現在のセンター試験に代わる「大学入学希望者学力テスト（仮称）」を導入するとされました。この改革により、高校教育、大学教育、大学入学者選抜が変わりはじめました。

そのような状況の中で、高大接続研究センターは、①高大接続に関する研究、②高大接続入試に関する研究、③中等教育に関する研究、④新たな大学入学者選抜の開発、⑤高大接続に関する事業の実施、以上5点について、専門的に調査研究するセンターとして設置されました。このセンターの最大の特徴は、このセンターが全国の大学にある高大接続に関するセンターとは異なり、所属大学のための入試改革・開発をミッションとするセンターではなく（その業務を本学で担当するのは「教育基盤連携本部アドミッション部門」です）、教育発達科学研究科に附属して純粋に高大接続のための研究・開発を行う機関であるということです。その設置に関して、重要な点をここに記すことをお許し頂きたいと思います。

そのひとつは、このセンターの設立には、たくさんの方々のお力があったということです。なかでも、濱口道成名古屋大学前総長と松田武雄前教育発達科学研究科長のご尽力なしには、このセンターの設立はあり得ませんでした。ここに記し、これらの方々のご期待に添えるよう、今後も活動を進めていきたいと考えています。

そしてさらにひとつの点は、このセンターが、附属学校内に設置されているということです。それは、国立大学附属としては唯一の併設型中高一貫校であり、日本における高大連携のモデルを形成してきた本附属中・高等学校の研究と実践の蓄積、また本研究科との協同研究の蓄積を基盤として、その延長上に、今後もいっそう附属中・高等学校と協同しながら、本センターが高大接続の先進的な研究を行っていかうとしていることを意味しています。

ところで、センター紀要第1号の公刊以降、高大接続改革はさまざまな面で進展し、2016年8月には「高大接続改革の進捗状況について」が、2017年1月には「高大接続改革の動向について」が、2017年5月には再び「高大接続改革の進捗状況について」が発表され、2017年7月には文部科学省から協力者会議への説明がなされています。この過程で、上記の「高等学校基礎学力テスト（仮称）」は、「高校生のための学びの基礎診断」となり、「大学入学希望者学力テスト（仮称）」

は「大学入学共通テスト」となって、具体的な姿も描かれ、後者については、試行調査（プレテスト）も始まっています。高大接続改革に関するこのようにめまぐるしく変化する状況のなか、本センターでは、みなさまとともに新たな高大接続教育の研究と、その実践における展開を進めていきたいと考えておりますし、それを通して、戦後最大の教育改革のひとつであるとされる高大接続改革がより有意義なものとなるための事業を展開していきたいと考えております。

さて、この紀要には、本センターが2017年3月に行った米国大学のアドミッション・オフィサーに関する調査の報告と、2017年9月に行った「大学入学者選抜に関する全米大会 NACAC Conference」への参加報告を掲載しています。また、本センターのレクチャーシリーズとして、2017年10月に行われた本学名誉教授の野口裕之先生によるご講演「IRTとCBTの光と影－高大接続改革の夢か現か幻か－」、2018年1月と2月にそれぞれ独自に収録した同じく名誉教授の今津孝次郎先生によるご講義「高大接続を目指す『キャリア教育』－『ボランティア』から『サービス・ラーニング』そして『インターンシップ』へ－」及び、同じく名誉教授の村上隆先生によるご講義「高大接続で問われるべき能力と適性とは？」を掲載しています。これらは、センターのWEBページでその映像も公開しています。なお、前号と同様、センターの活動報告も掲載しています。

ただし、2018年2月に開催して大変好評だった第2回公開講演会「高大を接続する－高校と大学の教師の役割－」の内容については、紙幅と時間の関係から本号への掲載は断念し、次号に掲載することになりました。しかしながら、講演の映像と、講演内容を文字化したものは、準備ができ次第、本センターWEBページで公開していく予定ですので、ぜひそちらもご覧ください。

なお、この原稿の入稿前に、本センターについて基幹経費化が認められた旨の連絡を受けましたことをここにご報告致します。これにより、当初の予定を延長して予算が措置されることとなります。これも名古屋大学執行部、植田建男本研究科研究科長と本学文系事務のみなさま、そしてセンター研究員や本研究科の先生方をはじめとした多くの方々のご指導・ご支援によるものと深く感謝しております。

本センターでは、これを励みに、今後一層、高大接続について、名古屋大学内外のさまざまな方々と一緒に検討していく所存です。本センターへのご期待、ご要望、そしてこの紀要の編集に関することなど、ぜひ奇譚の無いご意見をお伝え下さいますことをお願い申し上げます。

名古屋大学大学院教育発達科学研究科附属高大接続研究センター
センター長（本研究科教授） 大谷 尚